

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率について

ヒメトビウンカ越冬虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、調査を行ったほとんどの地点で高く、一部地域では特に高い傾向にありました。今後のヒメトビウンカの発生量によっては発病が多くなる可能性がありますので、今後の情報に注意し、適切な防除指導をお願いします。

技術情報

- 1 作物名 水稲
- 2 病虫害名 ヒメトビウンカ（イネ縞葉枯病）
- 3 保毒虫率調査結果
平成21年3～4月に県内16地点の水稲作付け後ほ場から採集したヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率をエライザ法で調査した。その結果、保毒虫率は平均8.4%で（表）、保毒虫率が高くなり始めた2003年から6年間の平均5.1%よりも高く、前年の平均6.4%よりもやや高かった。特に、京築地域の保毒虫率が高かった（表、地点番号14～16）。
- 4 防除上注意すべき事項
 - （1）水稲収穫後の刈株やイネ科雑草はヒメトビウンカの越冬場所であるので、刈株等が残っている場合は作付け予定がない場合でも早急に耕起し密度低下を図る。
 - （2）越冬世代成虫は小麦や越冬地付近のエノコログサ、イタリアンライグラス等のイネ科植物に移動し増殖するので、雑草防除を行い発生密度の低下を図る。
 - （3）水稲育苗ほ場への本種の飛び込みを防止するため、イネ科雑草が繁茂した場所や麦類作付けほ場付近での育苗を避ける。
 - （4）第1世代成虫は5月中旬ごろから羽化し始め、麦の収穫とともに麦ほ場から水稲へ移動するので、5月下旬～6月上旬移植の品種では移植直後から成虫の発生に注意し、発生が多い場合は適切な防除を行う。今後の発生状況については予察情報を提供するので参考にする。

表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率（平成21年4月）

地点番号	地点名	検定虫数	保毒虫数	保毒虫率(%)
1	宗像市河東	94	8	8.51
2	宗像市朝町	94	7	7.45
3	筑紫野市柚須原	94	8	8.51
4	久留米市太郎原	94	4	4.26
5	うきは市浮羽町山北	94	11	11.70
6	朝倉市菱野	94	9	9.57
7	嘉麻市中益	94	5	5.32
8	添田町落合	94	8	8.51
9	筑後市馬間田	94	3	3.19
10	大川市北古賀	94	6	6.38
11	みやま市瀬高町堤	94	4	4.26
12	黒木町木屋	94	5	5.32
13	岡垣町黒山	94	5	5.32
14	行橋市辻垣	94	10	10.64
15	豊前市岩屋	94	13	13.83
16	みやこ町勝山上久保	94	20	21.28
平均	県下全域 (地点番号1～16)			8.38
	本所管内 (同1～8)			7.98
	筑後支所管内 (同9～12)			4.79
	行橋支所管内 (同13～16)			12.77

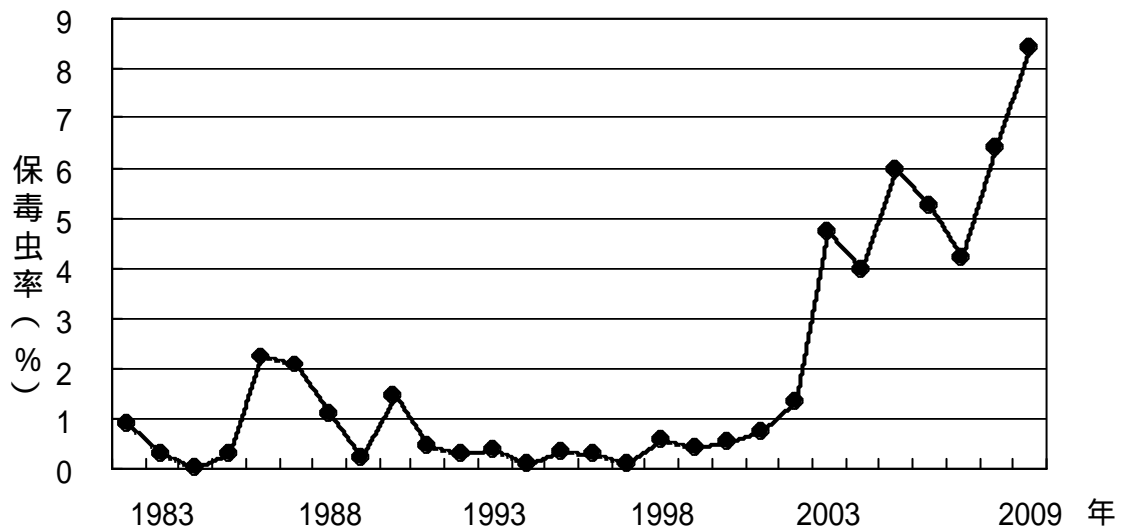


図 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率の推移